

和牛の一貫経営について

2018年度

(農)和知町升谷畜産振興組合

升谷畜産は京丹波町にあります





和知町升谷畜産振興組合全景

升谷畜産振興組合の経営内容

沿革

1981.11 (農)和知町升谷畜産振興組合設置 47,248m²

1996.03 堆肥センター設置

2016.04 鴨谷肉用牛生産組合と合併し分場設置 14,881m²

経営種目

本場 和牛肥育 800頭

分場 和牛繁殖 92頭

堆肥センター 牛糞堆肥「和知有機」を調整

従業員 本場 9名 パート1名

分場 2名 パート2名

堆肥 1名

升谷畜産振興組合の肥育部門 (2018年度)

素牛導入先	京都府、鹿児島県、分場
肥育牛出荷先	京都市食肉市場
肥育期間	生後8～9ヶ月令から肥育開始 生後30ヶ月令で出荷(21～22ヶ月間 肥育)
雌雄比率	約50:50%
素牛導入費	去勢牛85万円　雌牛75万円
肥育成績	上物率88%　5等級率45%
売上額	7億円

升谷畜産繁殖部門 の経営内容

2016.4.1 鴨谷肉用牛生産組合と升谷畜産が合併して升谷畜産振興組合鴨谷分場(繁殖部門)となる。

合併時の詳細

施設内容 畜舎1棟、管理棟1棟、堆肥舎1棟

2016 クラスタ事業で育成舎1頭、堆肥棟増設、分娩監視装置、発情監視装置導入

飼養頭数 和牛繁殖成雌牛75頭と子牛30頭

従業員数 2名

2018.11.20現在飼養頭数 成雌牛92頭 子牛40頭

升谷畜産振興組合から 和牛関連産業や消費者にアピール出来ること

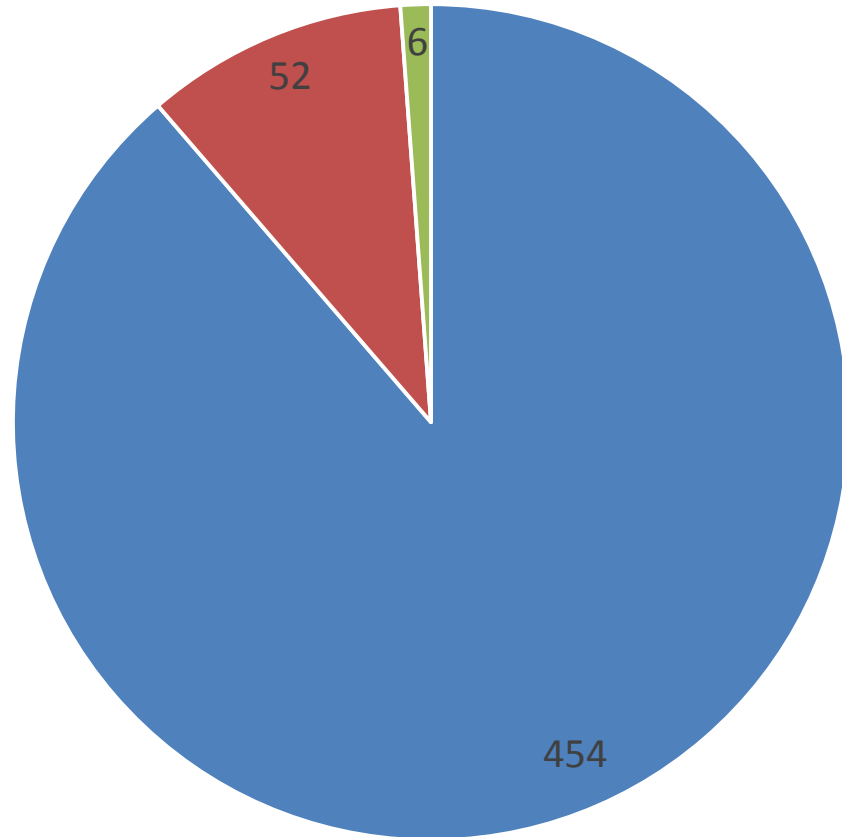
1. 安心安全な牛肉生産を行っている
「京のこだわり畜産物生産農場」に認定
2. 美味しい牛肉生産を行っている
牛肉の旨味成分である不飽和脂肪酸「オレイン酸」
が2018年度の平均56.6と高い
3. 従来の「肥育から店舗まで」を、更に進化させ「子牛生産から店舗まで」をスローガンとして、和牛の一貫経営の拡大により、安定的な牛肉の供給を図る
4. 消費者様から好まれるモモやウデにもサシの入る牛肉作りと「伝統と文化の味 京都肉」の生産を推進する

和牛の一貫経営は何故必要か

1. 現況の肥育素牛となる和牛子牛の高騰では、肥育経営は経費高で安定した経営が望めない。
2. 国内における和牛の生産頭数が年々微減しており、子牛市場での取り合いが観られ、当面子牛の高騰が持続される見通しである。
3. 上記の状況を踏まえれば、肥育経営を安定させるには繁殖と肥育の一貫経営が効率的で高い収益性が見込まれる。
4. 和牛の子牛および枝肉の相場は大きな変動を繰り返してきた。厳しい市況変動に対応できるのが、一貫経営の手法と判断出来る。

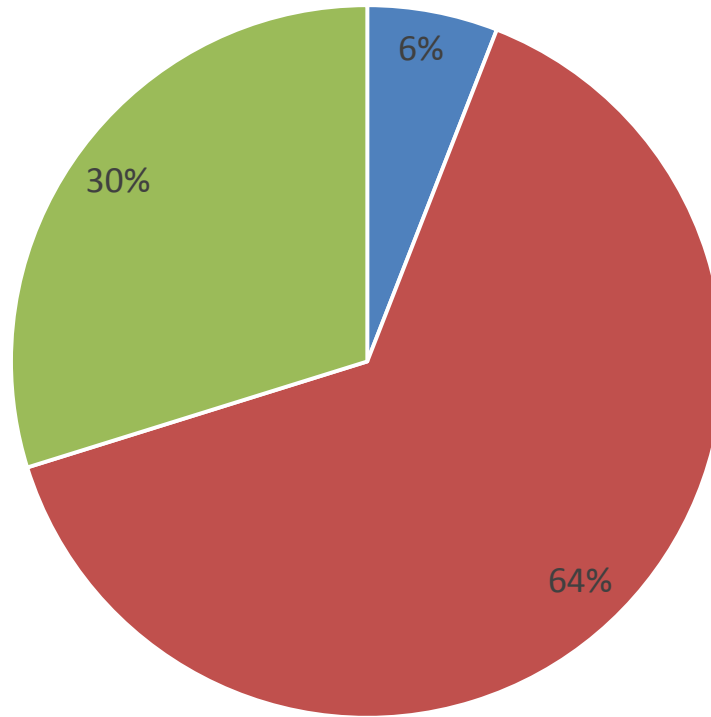
和牛の一貫経営の効果について

2018年度
升谷畜産における肥育牛の販売頭数



■ 市場導入牛 ■ 自家生産牛 ■ 老廃経産牛

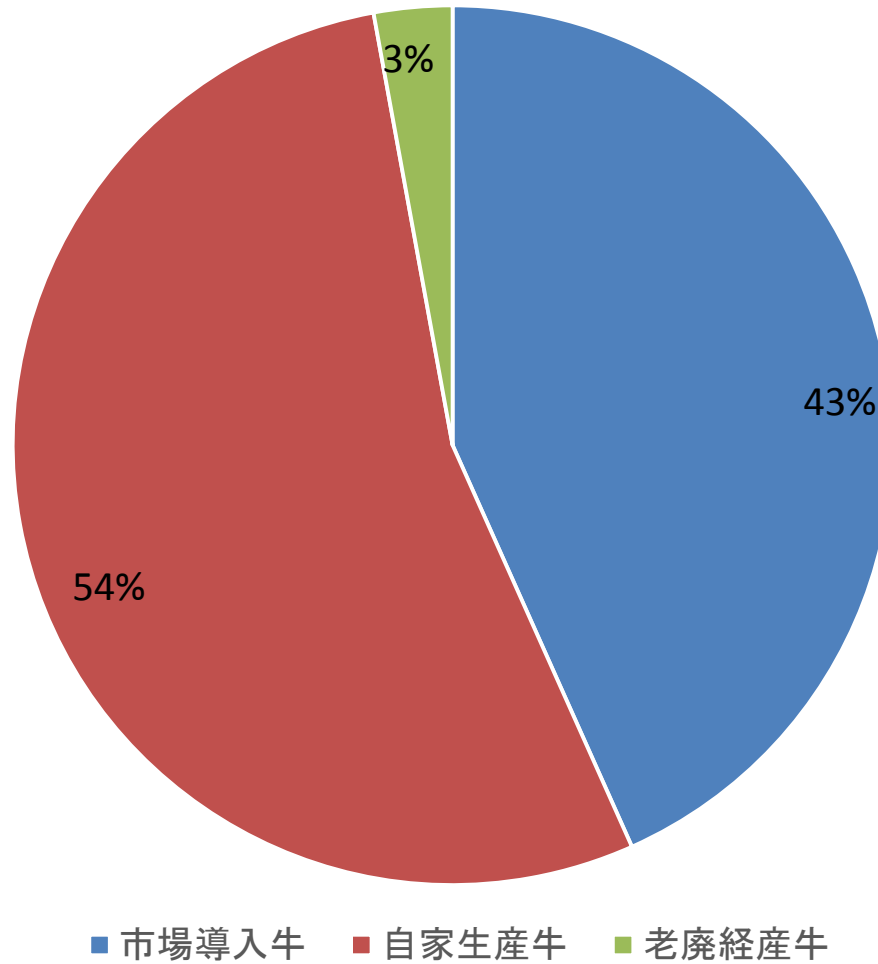
2018年度販売牛の差益額の比較 ～1頭あたりの平均～



■ 市場導入牛 ■ 自家生産牛 ■ 老廃経産牛

市場導入牛は導入費の高騰により1頭あたりの差益は5.9%と
厳しい結果となっている。

2018年度 升谷畜産振興組合における
導入先別の差益額の総額



升谷畜産振興組合における一貫経営の現状と課題

1. 一貫経営は、肥育部門での効果は歴然としているが、繁殖素畜の現状はクラスター事業の達成目標を控え、繁殖素畜の外部導入や減価償却費等、生産経費が割高になっている。
2. 一貫経営の目標を達成するには、繁殖部門での出生頭数が順調に増加する事であり、数年後には母牛群150～200頭を予定している。
3. 増頭には外部導入と自家保留がある。外部導入は価格高騰の問題点がある。自家保留が望ましいと判断している。
4. 増頭や更新用に重要なことは、素牛の身体的強靱さや増体や肉質能力の高い牛を揃えることである。
5. 従業員の経営意識の高揚と高い繁殖技術を備えて実践することである。加えて後継者の育成が重要になってくる。

ご静聴有難うございました。

升谷畜産振興組合
顧問 若松 繁

2018.11.29